

2015年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	理工学部	身分	教授
氏名	西田 治文		
NAME	NISHIDA, HARUFUMI		

1. 研究課題

(和文) 日本の後期中生代における被子植物の侵入及び多様化とその影響

(英文) Angiosperm invasion, diversification and biological influence in the Late Cretaceous of Japan

2. 研究期間

1年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文)

後期中生代に陸上生態系に起こった最大の変化は、被子植物の出現と急速な分布拡大といてよい。しかし、その経過を植物相の変化と、その結果として起こった生物相や環境変化としてとらえ、総合的に明らかにする研究がなされたことは、特に日本とアジアにおいてはまだない。本研究では1) 東北の宮古層群・久慈層群、北海道の蝦夷層群、2) 北陸の手取層群・足羽層群、3) 九州西海岸の三ツ瀬層・姫浦層群・御所浦層群の3地域と地層群において、植物化石採集調査を実施し、日本の後期中生代における被子植物の出現拡大の過程をさらに詳細に解明し、被子植物侵入後の植生と生態系の変化や影響を考察するための基礎資料とする。

実際の現地採集調査は、1) 岩手県洋野町 (2015年5月)、2) 北海道羽幌町他 (同9月)、3) 石川県勝山町 (同9月)、4) 千葉県銚子市 (2016年3月) で実施し、1) では材化石約100個、2) では石灰質ノジュール約210kg、3)、4) では花粉分析用岩石サンプルを採集した。

これらの資料について現在解析中で、洋野町からは新たな被子植物材、絶滅木生シダ *Tempskya* の根茎化石などを発見、当研究室 M2 の舟山美緒の2015年度修論に反映された。北海道中川町産のノジュールからは被子植物と共存した多様なマツ属葉化石がみつきり、B4 吉田大輝が卒研にまとめた。今後これらの成果を含め、学会誌等に発表してゆく。なお、西田が2016年度在外研究のため、本研究は単年度で終了する。

(英文)

In order to clarify biological influences due to angiosperm invasion during the Late Cretaceous of Japan, I made field collection of plant fossils from selected localities, eventually, Hokkaido, Iwate, Ishikawa and Chiba. A variety of fossil samples consisting of silicified wood (Iwate), calcite nodules (Hokkaido), and pollen-containing rocks (Ishikawa and Chiba) have been collected, and are now in laboratory process.